

第 23 回

ナショナルバイオリソースプロジェクト「ゼブラフィッシュ」

運営委員会議事録

日時：2023年9月5日（火）15:00～16:35

場所：オンライン(Webex)

実施機関：岡本仁(理化学研究所CBS)，川上浩一(国立遺伝学研究所)，東島眞一(基礎生物学研究所)，吉原良浩(理化学研究所CBS)，酒井則良(国立遺伝学研究所)

運営委員：石谷太(大阪大学)，伊藤素行(千葉大学)，川原敦雄(山梨大学)，菊地和(国立循環器病研究センター)，久保郁(国立遺伝学研究所)，小島肇(国立医薬品食品衛生研究所)，津田佐知子(埼玉大学)，西谷直之(岩手医科大学)，日比正彦(名古屋大学)，平田普三(青山学院大学・委員長)，松井秀彰(新潟大学)

欠席：島田康人(三重大学)，成瀬清(基礎生物学研究所)，政井一郎(沖縄科学技術大学院大学)

NBRP：小幡裕一(NBRPプログラムオフィサー)，鈴木智広(NBRP事務局)，石岡亜季子(理化学研究所CBS)，柿沼久哉(理化学研究所CBS)

文部科学省：古田和輝(研究振興局ライフサイエンス課)

(敬称略)

報告および審議

1. 会議趣旨説明（平田）

委員長より会議趣旨の説明があった。

2. 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課よりご挨拶

古田生命科学研究係よりご挨拶があった。

3. 事業報告（岡本，川上，東島）

実施機関の代表者より下記について報告があった。資料は事前にメールで委員に配布された。

- (1) 事業規模の概略
- (2) 2022年度の会計報告
- (3) 2023年度現時点までの会計報告
- (4) 2022年度の事業実績
- (5) 2023年度現時点までの事業実績
- (6) データベースの現状と更新状況
- (7) その他

実施機関の会計および事業内容について承認された。

- ・理研の人件費について

2022年度は人件費不足の問題があったが、2023年度は補助金の増額によりスタッフの雇用状況を回復することができたと報告があった。

- ・ 理研の実費徴収価格改正について

予定通り、2023年度より価格を改正したと報告があった。

- ・ 委員の継続について

久保委員の異動後の委員継続について承認された。

- ・ データベースについて

遺伝研のデータベースはシステム老朽化に伴う不具合がときどきあるが、NBRPのウェブサイトと連動する機能は維持できており、引き続き改善を検討する旨の報告があった。

- ・ 成果論文について

過去にシステムを提供したユーザーに連絡し、成果論文情報を収集したことが報告された。謝辞以外に、共著、Materials and Methods や Resources table への記載などの状況がある。謝辞明記の徹底に関しては今後も検討することとした。

4. 事業の課題と展望（岡本, 川上）

事業継続の観点から、理化学研究所と国立遺伝学研究所の体制について現状と展望の報告があり、その方向性が承認された。

5. 海外のリソース事業の動向（岡本）

国内外のゼブラフィッシュのコミュニティで、成体での透明さを特徴とするダニオネラを使う研究者が増えつつある状況について報告があった。今後の動向を注視することとした。

6. 国内外の産業界でのゼブラフィッシュ活用の動向

3Rの観点などから、民間企業におけるゼブラフィッシュの利用が拡大しつつある。希望の個体数が多くNBRPではそれに応えきれないケース等があるので、今後の状況に応じてアウトソーシング等の新たな仕組みを模索することとした。

7. 小型魚類研究会コミュニティ・ミーティングでのアナウンス（平田）

ユーザーが集まる小型魚類研究会のコミュニティ・ミーティングにおいて、岡本からNBRP事業を宣伝し、ユーザーから意見聴取を行うこととした。

8. その他（岡本）

2024年に京都で開催される予定のIZFC2024の準備状況について情報共有された。

→ 第 29 回小型魚類研究会に合わせて同会場で開催されたコミュニティ・ミーティング（2023 年 9 月 22 日）において、NBRP ゼブラフィッシュの事業内容をユーザーに案内し、積極的な利用、成果論文への謝辞記載をお願いした。また、事業継続に向けての展望をユーザーに説明し、要望等の意見聴取をした。運営委員会議で議論された方向性に満場一致の承認を得た。